

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分		専門基礎分野	授業の方法	講義	
科 目 名		耳鼻咽喉科学		必修/選択の別		必修	授業時数(単位数)	15	(1) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時間		後期 6,7限他	教室名	401	
担 当 教 員		泉谷 泰行	実務経験と その関連資格	大学にて解剖学、生理学、病理病態学などの講義を行っている。					
《授業科目における学習内容》									
耳鼻咽喉の疾患は、聴覚、発声、発語、嚥下障害の原因となることから、言語聴覚士にとって必要となる知識である。従って、耳鼻咽喉・頭頸部領域の主要な疾患について学ぶ。									
《成績評価の方法と基準》									
定期試験を100%とし、60%以上を合格とする。									
《使用教材(教科書)及び参考図書》									
『病気がみえる vol.13 耳鼻咽喉科』									
《授業外における学習方法》									
国家試験の過去問題を解き、出題の傾向を知る。									
《履修に当たっての留意点》									
耳鼻咽喉科の主要疾患の特徴を理解し、他科目と関連づけて理解してください。									
授業の 方法		内 容				使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容		
第 1 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	耳の構造と機能について説明できる。			教科書	当該分野の予習、復習		
		各コマに おける 授業予定	耳の構造と機能について学ぶ。						
第 2 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	耳疾患の検査法、外耳・中耳の疾患について説明できる。			教科書	当該分野の予習、復習		
		各コマに おける 授業予定	耳疾患の検査法、外耳・中耳の疾患について学ぶ。						
第 3 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	内耳の疾患、平衡障害の疾患について説明できる。			教科書	当該分野の予習、復習		
		各コマに おける 授業予定	内耳の疾患、平衡障害の疾患について学ぶ。						
第 4 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	顔面神経麻痺、鼻副鼻腔の構造・機能、鼻腔の疾患について説明できる。			教科書	当該分野の予習、復習		
		各コマに おける 授業予定	顔面神経麻痺、鼻副鼻腔の解剖構造・機能、鼻腔の疾患について学ぶ。						
第 5 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	副鼻腔の疾患、口腔・唾液腺の特徴について説明できる。			教科書	当該分野の予習、復習		
		各コマに おける 授業予定	副鼻腔の疾患、口腔・唾液腺の特徴について学ぶ。						

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔・唾液腺の疾患、咽頭の構造・疾患について説明できる。	教科書	当該分野の予習、復習
		各コマにおける授業予定	口腔・唾液腺の疾患、咽頭の構造・疾患について学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	喉頭の構造、喉頭疾患について説明できる。	教科書	当該分野の予習、復習
		各コマにおける授業予定	喉頭の構造、喉頭疾患について学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	気管・食道・頸部の構造、疾患について説明できる。	教科書	当該分野の予習、復習
		各コマにおける授業予定	気管・食道・頸部の構造、疾患について学ぶ。		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			